

「韓国の孤児のオモ二」の遺志を継ぐ社会福祉法人理事長

たうち ちとい
田内 基さん 70

顔



戦中から戦後の混乱期、韓国南西部・木浦モツホに、「オモ二(母)」と慕われた日本人女性がいた。

男として、母の生誕100年となる31日、記念行事が行われる木浦から、国連に「世界孤児の日」制定を呼びかける。

国の元閣僚からも賛同した。日韓関係は今、ぎくしゃくしている。「日韓の間で生まれた」人間として、両国は「世界に向けて手を携えるべきだ」と強く思う。

児童養護施設で3000

人の孤児を育てた田

内千鶴子さん(191

2〜68年)だ。その長の韓国人の夫が行方不明になっ

寡黙な母は、朝鮮戦争で施設長

「孤児と一緒に育てられた」

中川孝之、写真も)

2〜68年)だ。その長

の韓国人の夫が行方不明になっ

寡黙な母は、朝鮮戦争で施設長

寡黙な母は、朝鮮戦争で施設長

「孤児と一緒に育てられた」

中川孝之、写真も)

た後も、戦争孤児を引き取り、リヤカーで食糧を集めた。晩年、「苦勞したのは、(自分ではなく)子供たち」と話していた。20代で施設運営を継ぎ、ソウルに孤児らの職業訓練校を開校。関西に在日コリアンの老人ホームも設立した。

韓国は豊かになった。だが、世界には孤児があふれている。

「『孤児の少ない社会』が母の夢だった。孤児への意識を高める日を作りたい」。木浦のオモ二の志を継いだ息子に、韓

国の元閣僚からも賛同した。

日韓関係は今、ぎくしゃくし

ている。「日韓の間で生まれた」

人間として、両国は「世界に向

けて手を携えるべきだ」と強く

思う。

中川孝之、写真も)